

平成27年度第4回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時： 平成28年2月19日(金) 10時00分から11時30分

場 所： 墨田区役所13階 131会議室

- 議事内容：
- 1 開 会
 - 2 福祉保健部長あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 墨田区地域福祉計画の進捗状況報告について
優先的取り組み内容の平成27年度事業結果報告
 - (2) 第三次墨田区地域福祉計画(後期)案について
 - (3) パブリック・コメントの実施結果について
 - 4 閉 会

【配布資料】

優先的取り組み内容の平成27年度事業結果報告

「第三次墨田区地域福祉計画」について～「中間のまとめ」からの変更点等
墨田区地域福祉計画(後期)(案)

墨田区地域福祉計画推進協議会委員

氏 名	所 属	出欠席
山 口 稔	関東学院大学教授	出席
市 川 菊 乃	墨田区医師会会長	欠席
湯 澤 伸 好	東京都本所歯科医師会会長	欠席
濱 野 明 子	墨田区薬剤師会会長	出席
吉 田 政 美	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
荘 司 康 男	墨田区障害者団体連合会会長	出席
野 原 健 治	墨田区私立保育園協会、興望館館長	出席
沼 田 典 之	墨田区老人クラブ連合会会長	出席
小 林 実	はなみずき高齢者在宅サービスセンター長	欠席
横 山 信 雄	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席
栗 田 陽	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席
椎 名 美恵子	墨田区男女共同参画推進委員会	欠席
石 鍋 光 子	朗読奉仕「くさぶえ」監査	出席
伊 藤 林	個人ボランティア	出席
本 宮 秀 明	全国福祉情報研究会3 SUNネット墨田支部	出席
井 上 久 子	録音グループかりん会長	出席
齊 藤 宮 子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
外 川 浩 子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	出席
青 木 剛	墨田区福祉保健部長	出席
石 井 秀 和	墨田区子ども・子育て支援担当部長	出席
北 村 淳 子	墨田区保健衛生担当部長	欠席
小久保 明	墨田区区民活動推進部長	出席

事務局

厚生課長 池田 善久
 高齢者福祉課長 福田 純子
 区民活動推進課長 中山 賢治
 障害者福祉課 竹腰
 厚生課 東條、山崎、柴田

その他

傍聴者1名

議事録

【 1 】 福祉保健部長あいさつ

来年度予算のプレス発表で、地域福祉プラットフォームづくりの支援事業を発表している。議会での承認の後、来年度早々から進めていきたい。

本日の会議は、墨田区地域福祉計画の今年度の進捗状況報告と、地域福祉計画（後期計画）の改定案、パブリック・コメントの実施結果が主な議題となる。忌憚のないご意見をお願いしたい。

委員の2年間の任期が3月31日をもって満了となる。感謝申し上げます。

【 2 】 議事：墨田区地域福祉計画の進捗状況報告について

（ 1 ）事務局より資料の説明

- ・高齢者福祉課長より「高齢者みまもり相談室の全区展開」を説明。
- ・社会福祉協議会（栗田委員）より「小地域福祉活動実践地区の拡大促進」「各世代ごとの、段階的・継続的な福祉教育プログラム体系の整備」「地域福祉活動コーディネーターの発掘・育成」「区内相談機関と地域住民活動との連携強化」を説明。
- ・厚生課長より「地域福祉施設等の見守り活動」「社会貢献型後見人（市民後見人）の育成」「民生委員・児童委員やボランティアグループなどへの支援強化」「課題別プラットフォームの形成促進」「（仮称）地域福祉・ボランティアフォーラムの開催」「地域福祉に関する情報の発信」「民生委員や社会福祉協議会、地域包括支援センター等の相談・支援機関のPR強化」を説明。

（ 2 ）委員からの質問・ご意見

市民後見人が南部と北部に何人ずついるか教えていただきたい。（荘司委員）

市民後見人の養成研修を修了した方について、南部・北部で何人いるかの数値は出していない。必要に応じて、後でお伝えしたい。（厚生課長）

（補足）上記について後日集計した。

市民後見人養成研修修了者の居住地の内訳（人）	北部	南部	区外	合計
	25	17	4	46

自宅に見守りの方が来た際、筆談で対応していたが、筆談の癖が付かないように現在は筆談をしないようにしている。その方は自分の表情で理解することとなるが、聴覚障害者が見守りの方に相談に行っても話は伝わらない。実際の相談につなげてほしいし、そうしたケースがあるということを知っていただきたい。また、そうしたことを上に上げてほしいし、上に上がっているかどうか教えていただきたい。放置しないで対応していただきたい。（荘司委員）

高齢者みまもりネットワークで協力員の育成を行っており、その協力員が対象者とのマッチングをみまもり相談室で行っているが、そのマッチングの中でできるかできないかを判断している。中には協力員ではなく、みまもり相談室での対応を希望されるケースもある。件数までは把握していないが、状況はみまもり相談室で認識している。（高齢者福祉課長）

聴覚障害者は手話でのコミュニケーションを希望している。手話通訳を派遣するとしても手続きが必要であり、時間もかかる。急に来られても対応できないことを認識していただきたい。(荘司委員)

4月から障害者差別解消法が施行され、合理的配慮の要求により、手話通訳者を付けてほしいとの要望が当然の権利として出された場合、みまもり相談室で対応できるのか。きちんと考えているのか。(齊藤委員)

高齢の聴覚障害者への見守りを、高齢者の見守りの中で対応していくのか、それとも別の方法があるのか、今後、検討していきたい。(障害者福祉課)

以前、みまもり相談室の方が来た時には不在で、後で電話をした際に元気かどうかを聞かれ、元気だと答えたら、それっきりとなった。見守りはこちらから申し出ないと行わないのか、それとも、みまもり相談室で状況を把握した上で行うのか。(石鍋委員)

見守りの手段には3段階あり、そうしたケースは地域の団体等が日頃の様子を見ていく緩やかな見守りになると考えられる。協力員による見守りになると、定期的に見守りと報告を行っている。本人からの要望がないと行わないということではなく、地域で見守りながら状況を把握している。(高齢者福祉課長)

見守りで来てくれると、気にかけてくれていると思えるが、元気かどうかの把握だけで終わった。元気な一人暮らしの方でも、相談員が来て様子を伺ってくれているが、人によって対応が違うのかと感じた。(齊藤委員)

見守りの研修は行われているが、より具体的に状況が分かると利用しやすくなるし、状況の進展が分かるようになる。そのような努力に努めていただきたい。(野原委員)

【 3 】 議事：第三次墨田区地域福祉計画（後期）案及びパブリック・コメントの実施結果について

(1) 事務局（厚生課）より資料の説明

- ・厚生課長より「素案」における「中間のまとめ」からの変更点として、活動紹介を追加した点、基本目標1と基本目標2で関連事業を追加した点、ファミリー・サポート・センターの目標数値を追加した点、老人クラブの取り組み実例を追加した点、「CSWによるプラットフォームの形成と地域課題の解決事業」の文言を修正した点、末尾に資料編を追加した点、写真の追加や所要の文言を修正した点を説明。
- ・厚生課長よりパブリック・コメントの実施結果と内容を説明。

(2) 委員からの質問・ご意見

プラットフォームの語源や具体的な内容の説明がほしい。また、民生委員は相談を受けて行政につなげる役割があり、これからは何かしらに困った人が増えてくるだろうから、民生委員・児童委員をどんどん活用していただきたいし、そのような広報活動が重要である。(吉田委員)

プラットフォームを認識していく必要があるだろう。これは、副会長の考えや委員の意見を

まとめたものがある。(野原委員)

プラットフォームの説明を、計画の中で1ページ程度、解説として掲載する予定である。(厚生課長)

会長提言が計画になじむかどうかの判断は行政に任せるのが良いだろう。ただし、内容についてはもう一度推進協議会で確認しておいた方が良い。プラットフォームの説明、話し合いの場における平等性や各主体による合議と形成などの原則、児童館や社会福祉施設などによる地域包括ケアの拠点づくり、区域、連携を図る理念や実例などをまとめている。また、墨田区全体を俯瞰する必要がある、それを進めるのが推進協議会と計画で、これが土台となり、さまざまなプラットフォームが形成されるという会長提言としている。あとは事務局に任せたい。(野原委員)

ボランティアセンターの取り扱いがあまり書いていないが、その辺はどうなのか。また、すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムで年に1回、全体的に集まって会議をしても、人が多すぎて話が進まないため、地域包括支援センターで地域ごとに集まって、年に1回の会議を行うことはできないか。(伊藤委員)

計画では、ボランティアセンターに関わる事業はたくさんある。また、ボランティアセンター自体のハード面については、ボランティアセンターも含めた区民活動センターの整備の事業を掲げている。(厚生課長)

ボランティアが足りないということがある。現状を把握するために、具体的に現場に出向いて話をしてはどうか。もう少し具体的に内容を記載して、利用につながるようにしてはどうか。(伊藤委員)

ボランティアセンターでは、チラシを配布して募集する地道な活動もしている。計画へ細かな内容までの掲載するのは難しいが、周知に努めていきたい。(厚生課長)

障害者の方が、行政からではなく仲間から聞いて制度やサービスのことを初めて知ったということも多い。電話番号など、実際に使える情報の掲載をお願いしたい。(伊藤委員)

ボランティアセンターについての指摘は認識している。計画にどこまで記載するかということだろうが、記載していなくても、ボランティアの確保や周知に努めていきたい。(栗田委員)

広報活動が重要である。65歳の時点で介護保険制度や高齢者医療制度などの情報を区民が知ることができる機会の創出と広報が行政には求められる。(吉田委員)

高齢期を迎える方々へは年に一度、広報の特集号等で制度やサービスの周知を行っているが、まだ周知を図れていないこともあるため、イベントの開催や冊子「たんぽぽ」での周知、老人クラブ等の団体への周知など、工夫に努めていきたい。(高齢者福祉課長)

研修会という名目で65歳以上の方に研修を受けてもらい、終了証を発行するのはどうか。区民全体に確実に周知して行き渡ることが必要である。プラットフォームができたならば、プラットフォームやその地域ごとに、年に1~2回実施してはどうか。(吉田委員)

高齢期になっても元気で社会参加ができる場合、何が求められているのか、社会貢献の内容について周知することも必要である。(濱野委員)

高齢者になると、お知らせをもらっても読むのがつらい。高齢者へのお知らせは、文字を大きくするなどの工夫をすれば読みやすくなり、目を通すようになるのではないか。弱視の方への配慮にもなる。(齊藤委員)

【４】 まとめ

山口副会長からのコメント

- ・住民の視点や立場を大切にしながら計画を評価して計画を改定していこうと、この推進協議会では目指してきた。それが墨田区のガバナンスにつながるものである。通常は、数的な事業評価がほとんどであるが、墨田区は質的な評価を設けてきた。数的評価は行政目線であるが、質評価は援助される側や住民に聞いての評価で、ある程度、それができたのは良いことである。もう一歩進んで考えると、質的な評価には出てこない生の声が出てくると良い。
- ・この推進協議会は、住民と行政の両方の立場から総合して客観的に評価をしてきたが、住民の視点で考え直してみることが課題だろう。個々の住民は自分のケースから出発する。その際のキーワードが地域包括ケアとプラットフォームだろうが、抽象的で議論が深まっていなかった。そのため、会長提言で計画に記載してはどうかとなった。この推進協議会の代表として何かしらの提言があっても良いだろう。
- ・地域包括ケアは、1990年のゴールドプランで在宅介護支援センターが入ったことにより、地域包括ケアの法的基盤ができた。2000年には介護保険がスタートし、制度の枠に基づいて地域包括ケアが始まったが、やってみて分かったのは、専門職の連携や住民との連携などを含めないと、ケースマネジメントだけでは地域包括ケアができないということだった。
- ・現在は高齢者だけではなく、子ども・子育てや貧困問題でも地域包括ケアの考え方が出てきている。これを進める際に、地域で連携を取る必要があり、そこでプラットフォームが出てくる。そこは問題解決の共有の場であり、まずは情報の共有が行われる。そして、問題意識が共有され、解決手段が共有される。それを実行する際に、役割分担や資源の持ち寄りが行われる。それを地域において住民参加で行う場合に、プラットフォームが必要となる。それを簡潔にまとめて区民に説明する必要があるが、それがこの計画に分かりやすく出てきていないため、会長の冒頭のあいさつや会長提言として表すことができれば、委員の声を計画に反映させることができるのではないかと。

プラットフォーム論を打ち出している地域福祉計画はまだないだろう。子ども・子育てでも議論はされており、墨田区の場合、墨田区としてどこを大事にして、墨田区のプラットフォームとするかが計画で述べられているだけに、プラットフォームのテキストがないのももったいない。国は地域包括ケアに進んでいく中で、いち早く地域福祉計画で打ち出して、各行動計画の土台となれたらと思う。会長発言が良いかどうかは事務局で検討いただき、信任したい。(野原委員)

サロンというものがあるが、聴覚障害者が参加してもコミュニケーションには制限がある。地域にではなく、区として聴覚障害者のためのサロンの立ち上げをお願いしたい。聴覚障害者も住民の一人であり、当然のことと考えている。(荘司委員)

当事者自身がサロンを立ち上げるという方法もある。(吉田委員)

推進協議会でプラットフォームの考え方などを学ぶ中で、駅に近い薬局でカフェをやっている、実践していこうと考えている。(濱野委員)

素晴らしい試みである。(野原委員)

【5】 その他

プラットフォームについて、説明や留意点などを解説としてまとめ、計画書に盛り込んでいく。内容は会長に相談する。計画は4月に完成するため、委員に配付する。(厚生課長)

平成28年度から計画に基づいて事業展開していくが、プラットフォームの考え方を進めていきたい。今後も、地域福祉の推進に協力をお願いしたい。(厚生課長)